

吟剣詩薈

g i n k e n s h i b u

令和6年度

全国吟詠コンクール決勝大会
全国剣詩舞コンクール決勝大会

全国学生詩吟連盟

合同合宿潜入レポート

吟剣詩舞の故郷

「壇ノ浦」(山口県)

表紙の詩

凱旋 乃木希典

王師百万驕虜を征す

野戦攻城屍山を作す

愧ず我何の顔あつてか父老に看えん

凱歌今日幾人か還る

11

令和6年
霜月

昨年に詩舞少年の部優勝を果たした建部有咲さんは、剣舞でも連続優勝

日本財団助成事業

日時：〔吟詠〕令和6年9月16日(月・祝)

〔剣詩舞〕令和6年9月23日(月・休)

場所：〔吟詠〕東京／日本教育会館・一ツ橋ホール

〔剣詩舞〕大阪／門真市民会館ルミエールホール大ホール

主催：公益財団法人 日本吟剣詩舞振興会

令和六年度全国吟詠コンクール決勝大会 令和六年度全国剣詩舞コンクール決勝大会 原光希さんが父に 続き青年三冠を達成

昨年、東西に分かれて開催されたことになった全国吟詠および剣詩舞コンクール決勝大会。今年も敬老の日と翌週の秋分の日振替休日に東京と大阪で開催、猛暑が収まらぬなか、熱い戦いが繰り広げられました。青年の部では吟詠と剣詩舞両方のスーパースターに所属する原光希さんが、吟詠で高松宮妃記念杯を獲得、翌週の詩舞でも優勝して令和3年度の剣舞優勝に続き見事に青年の部三冠を達成しました。

全国吟詠コンクール決勝大会

主催（公財）日本吟剣詩舞振興会



吟詠コンクールで早淵鯉将副会長から高松宮妃記念杯を授与される原光希さん。翌週の詩舞でも優勝して三冠を成し遂げた



東京・一ツ橋ホールで開催された吟詠コンクールでの幼年・少年の部入賞者

幼年・少年・青年の部優勝者の横顔

*名前が赤字は高松宮妃記念杯受賞



昨年青年の部初出場
で2位。この1年は「技術
的な部分はもちろんで
すが詩の内容をより伝
えられるような吟詠を
意識してきました」

吟詠青年の部 優勝

原 光希さん(兵庫)
吟題「従軍行」



少年の部最後の年に栄
冠。「6年前に幼年の部
で優勝しましたけど、
少年はレベルも上がりラ
ストチャンスだったので
よりうれしいです」

吟詠少年の部 優勝

原田愛子さん(大分)
吟題「九月十日」



昨年まで東日本大会に
進めなかったが、全国大
会初出場で優勝。「3
位以内には入るかなと
思ってたけど、まさか優
勝とは！」と感激。

吟詠幼年の部 優勝

遠山凜香さん(東京)
吟題「江南の春」

一般一部・二部・三部優勝者の横顔



吟と出会って43年。入
賞はあったが優勝は初。
「不思議とあがらず詠
えましたが、名前を呼
ばれて『嘘!』と思わず
声が出ました(笑)」

吟詠一般三部 優勝

中野澄子さん(広島)
吟題「佳賓好主」



一部から続く挑戦で入
賞はあるものの、今回
が嬉しい優勝。「成績は
考えず、練習の成果を
出せたらいいなという
思いで吟じました」

吟詠一般二部 優勝

井川良得さん(茨城)
吟題「時に憩う」



一般一部に初出場した
昨年は2位でとどろそ
という意識が強くて力
が入ってしまいました。今
年は程よく抜けて良
かったと思います」

吟詠一般一部 優勝

井戸隆裕さん(大阪)
吟題「従軍行」

厳しくも優しい師弟の絆

少年の部優勝の
原田愛子さんの師匠は
原田光玲子少壮吟士

原田さんの師匠は母である淡窓
伝光霊流の原田光玲子さん(右)。
祖母の河野光璃子さん(左)が吟
詠と詩舞をやっていたことから、光
玲子さんも両方習うことに。その
影響で次女である愛子さんも、長
女の理子さんとともに吟詠をはじ
め、将来は「お母さんのような少
壮吟士になりたい」と夢を語る。



幼年の部優勝の
遠山凜香さんと師匠の
佐藤鴻希子先生

小学5年生で昨年までは東日本
大会に進めなかったという遠山
凜香さん。吟道鴻成流鴻希会の
佐藤鴻希子会長(右)に、お母さ
ん、弟とともに師事している。佐
藤先生によると遠山さんは「ピア
ノも習っているので音感が良く、
言うときでできる子なので、教
えがいがあります」とのこと。



徳田寿風審査委員長

「専門審査だった(調和)を、昨年に続き一般審査の
採点項目としました。また今年度より一般二部は55
歳から75歳未満、一般三部は75歳以上となっており
ます。まず(発声)の声質については、高音域を望
むあまりぎりぎり届く本数では無理が生じます。ま
たマイクに近くなりすぎないことも大切です。技術
については母音が正確に発声されるように注意が
必要です。それと吟の上手下手はこぶしの回り具
合でわかるとも言われるので練習を重ねてくださ
い。(詩心)について私が心がけているのは、色彩
をイメージすることです。詩によって暗いグレー、淡
いピンクなどを思い描くことで気分がその色に染
まり、詩にふさわしい声の表情になります。(態度)



は左右対称が美しさ
のポイントになります。
(調和)については伴
奏曲を覚えるくらい聞
いて練習してください。
専門審査の(発音)で
は、鼻濁音にしてく
てもよいところが鼻濁
音に聞こえる方がおら
れましたので、注意し
てほしいとのことでした」

全国吟詠コンクール決勝大会 結果

一般一部

- 優勝 井戸隆裕 (大阪)
- 2位 吉澤純子 (東京)
- 3位 高木恵美子 (山口)
- 4位 徳安秀作 (福岡)
- 5位 阿部香織 (東京)
- 6位 中澤 宏 (茨城)
- 7位 田中達也 (香川)
- 8位 松本亜矢子 (福岡)

一般二部

- 優勝 井川良得 (茨城)
- 2位 尾方美千代 (熊本)
- 3位 岡田洋子 (富山)
- 4位 前重興亮 (大阪)
- 5位 遠藤昌成 (東京)
- 6位 佐野誠樹 (兵庫)
- 7位 赤塚善夫 (愛知)
- 8位 西 京子 (福島)
- 9位 蜷川内初代 (大分)

一般三部

- 優勝 中野澄子 (広島)
- 2位 大岩孝子 (広島)
- 3位 西岡悦子 (大阪)
- 4位 渡辺良夫 (岐阜)
- 5位 池田弘隆 (香川)
- 6位 青木昭男 (宮崎)
- 7位 堀内京子 (静岡)
- 8位 紀野実知子 (静岡)
- 9位 園子美知代 (香川)
- 10位 竹川いつ子 (香川)

幼年の部

- 優勝 遠山凜香 (東京)
- 2位 阿部楓生 (東京)
- 3位 高橋拓来 (京都)
- 4位 佐藤 琳 (大分)
- 5位 マリックソフィア和桜 (熊本)

少年の部

- 優勝 原田愛子 (大分)
- 2位 阿部尊生 (東京)
- 3位 西部和華 (岐阜)
- 4位 濱中悠太郎 (熊本)
- 5位 永田菜桜 (愛知)

青年の部

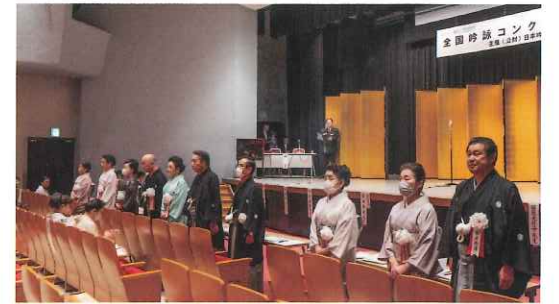
- 優勝 原 光希 (兵庫)
- 2位 大野統也 (愛知)
- 3位 鈴木愛琉 (群馬)
- 4位 小早川麻衣 (京都)
- 5位 藤吉瑞季 (大分)
- 6位 森田晃代 (宮崎)
- 7位 下北祥子 (兵庫)

審査委員講評



河野正明特別審査委員

「前回、前回は一般三部に面白い吟をす
る方がいましたが、今回はコンクール用に
勉強されたのか、ほとんどいなくて残念で
した。結果を気にせずに『自分の吟を聞
かせてやる』というような気概も持って
いただければと思います」



吟詠専門委員を中心とした審査委員。(調和)は一般審査と
なり、(発音)のみ専門審査で行われた

吟剣詩舞のメッカであった笹川記
念会館の解体工事等に伴い、令和4
年度から一ツ橋ホールで開催されて
いる全国吟詠コンクール。今年も地
区予選を突破した153人がエント
リしました。うち欠席者は3人だ
けで、国歌斉唱も会詩吟もマスク
なし、コロナ禍が収まったことが印
象づけられました。

地区予選では出場者が少ない幼
年から一般二部。そのぶん全国大会で
は少数精鋭による激戦が展開され
ます。令和3年度幼年の部優勝の
阿部尊生さんと幼年で昨年度2位
の楓生さんとの阿部兄妹は、少年と
幼年で2位。二人とも声量があるだ
けに、マイクに近づきすぎたかもしれ
ません。

青年の部はスーパーチームメンバ
ーや幼年少年で優勝経験がある粒揃
いの顔触れ。その中で吟詠、剣詩舞
両スーパーチームに所属、オールラ
ウンドに活躍する原光希さんが昨
年度2位からトップの座へ。各部優
勝者中最優秀者に贈られる高松宮
妃記念杯も授与されました。

少壮吟士準候補が6人出場した
一般二部。そのうちの1人で、昨年こ
の部に初出場して2位となった井戸

隆裕さんが、その悔しさを晴らして
優勝を飾りました。

従来の70歳未満から75歳未満と
年齢幅が広がった一般二部は、その
ぶんレベルが上がった印象。それに
対し一般三部は、河野審査委員が評
したように例年より個性が薄い雰
囲気となりました。

表彰式では一般三部の入選者で届
け出なく欠席した方がいたため、順
位が繰り上げに。最後は早淵鯉將
副会長が「来週は大阪の門真市で
全国剣詩舞コンクール決勝大会が
開催されます。今日と両方出場さ
れる方もいるので、ぜひご覧くださ
い」と閉会の辞を述べ、大会の幕を
閉じました。

幼年・少年・青年の部優勝者の横顔

*名前が赤字は文部科学大臣賞受賞



3年ぶりに全国大会に出場して念願の優勝。地区大会で敗退した昨年は弟の隆生さんが優勝、「頑張ってるな」と思っ

剣舞青年の部 優勝

上岡雅治さん(三重)

演題「和歌・さへのぼる」



昨年詩舞で優勝して号泣。「剣舞は刀に全集中するところがむずかしい、不安もあったのですが2年連続で優勝できてすごくうれしいです」

剣舞少年の部 優勝

建部有咲さん(愛知)

演題「客舎の壁に題す」



3年前に幼年で優勝した寛介さんの弟。去年は3位で「悔しかった」けど、先生やお母さんに「怒られながら頑張りました」とのこと。

剣舞幼年の部 優勝

埴 嘉門さん(愛知)

演題「鞍馬の牛若」



3年前に剣舞で、前週に吟詠で優勝して三冠達成。びっくりしてまず、2位だったので肩の荷が下りた感じです」

詩舞青年の部 優勝

原 光希さん(兵庫)

演題「和歌・よもの海」



一昨年剣舞で優勝、昨年は詩舞で2位。「悔しさもありましたが、足りないとこがあったのでまた来年頑張ろうと思いました」

詩舞少年の部 優勝

堀 真大朗さん(愛知)

演題「青葉の笛」



昨年の剣舞に続き連続優勝。「詩舞は中腰でゆっくり動くところとかむずかしい、1年の練習で優勝できて『マジ最高!』です」と感激。

詩舞幼年の部 優勝

齊藤柚璃さん(兵庫)

演題「青葉の笛」

一般一部・二部・三部優勝者の横顔

*名前が赤字は文部科学大臣賞受賞



50代で剣詩舞に出会い25年目。詩文の理解を深めて稽古を重ね、初の全国大会で栄冠に輝く。「思いもよらない結果にびっくりです!」

剣舞一般三部 優勝

小澤文子さん(愛知)

演題「涼州詞」



平成17年度の一般一部に続いて、二部では三度目の正直となる全国優勝。「頑張らなくてええ」という師のアドバイスを背に本番で輝く。

剣舞一般二部 優勝

西原 香さん(兵庫)

演題「豊公の旧宅に寄題す」



昨年18年ぶりにコンクール出場して詩舞で優勝。「剣舞は地区大会でも優勝できなくて自信がなかったのが、驚いています」

剣舞一般一部 優勝

奥谷晶子さん(愛知)

演題「豊公の旧宅に寄題す」



10年前の剣舞一般二部に続き、詩舞で二度目の優勝。「踊り切れた感覚があり、入賞せずとも満足だったので、望外の喜びです」

詩舞一般三部 優勝

蜂須賀記代子さん(愛知)

演題「厳島」



一般二部では二度目の挑戦で全国優勝。一般一部剣舞に続く栄冠。「普段通りの舞を心がけてきたが、番号を呼ばれて驚きました」

詩舞一般二部 優勝

入倉仁美さん(愛知)

演題「壇の浦を過ぐ」



平成24年度に剣舞で優勝して以来詩舞に挑戦、「長かったです。どちらかというと剣舞家なので詩舞で感情を抑えた表現に苦しました」

詩舞一般一部 優勝

伊藤修司さん(愛知)

演題「和歌・よもの海」

12人中6人が同部で剣舞と詩舞両方に優勝

令和六年度全国剣詩舞コンクール決勝大会

全国吟詠コンクールの1週間後、昨年と同じく門真市で全国剣詩舞コンクールが開催。関西吟界の重鎮、山岡哲山先生の告別式出席の沼崎富会長に変わり、徳田寿風副会長が挨拶文を代読。剣舞幼年の部から演舞が開始されます。

最初に登場した昨年2位の小野愛琉真さんが澁刺とした見事な舞を披露。大会のレベルの高さを伺わせるスタートとなりました。昼食後に剣舞と詩舞の幼年・少年の部の結

果発表。昨年剣舞幼年優勝の齊藤柚璃さんが詩舞で、昨年詩舞少年優勝の建部有咲さんが剣舞で優勝するなど、強豪が栄冠を勝ち取る結果になりました。

一般二部・三部でも、昨年詩舞一般二部で2位の入倉仁美さんが優勝するなど常連が活躍しましたが、剣舞一般三部の小澤文子さんは初の全国大会で優勝を果たしました。一般一部では昨年詩舞優勝の奥谷晶子さんが剣舞でも連続優勝。詩舞優勝の伊

藤修司さんは平成24年度の剣舞優勝以来、12年かけての栄冠となりました。

毎年スーパーチームメンバーを中心にしのぎを削る青年の部。剣舞では昨年弟(隆生さん)の優勝を客席で見た上岡雅治さんが、3年ぶりの全国大会で優勝。詩舞では令和3年度剣舞で優勝、前週に吟詠で優勝した原光希さんが、平成8年度にお父さんの原弦太郎さんが成した青年の部三冠を見事に達成しました。

全国剣詩舞コンクール決勝大会結果

【剣舞】幼年の部

優勝 埴 嘉門 (愛知)
2位 藤原昂大 (岡山)
3位 小野愛琉真 (栃木)

【詩舞】幼年の部

優勝 齊藤柚璃 (兵庫)
2位 片山祐希 (愛知)
3位 畑本彩希 (岡山)

【剣舞】少年の部

優勝 建部有咲 (愛知)
2位 金山咲希 (愛知)
3位 戸田宙希 (滋賀)
4位 田口 穂 (東京)
5位 長谷英朋 (大阪)

【詩舞】少年の部

優勝 堀 真大朗 (愛知)
2位 永田菜桜 (愛知)
3位 片山心結 (岡山)
4位 植原李香 (京都)
5位 四方はな (京都)

【剣舞】青年の部

優勝 上岡雅治 (三重)
2位 友井川 友 (兵庫)
3位 石川姫麗 (愛知)
4位 杉浦きよ乃 (愛知)
5位 向山諒一 (福岡)

【詩舞】青年の部

優勝 原 光希 (兵庫)
2位 入倉慶志郎 (東京)
3位 柴本佳乃愛 (愛知)
4位 増井章高 (兵庫)
5位 杏川桃子 (愛知)

【剣舞】一般一部

優勝 奥谷晶子 (愛知)
2位 松本全伸 (愛知)
3位 木村佳奈 (兵庫)
4位 大津知紀 (兵庫)
5位 石田泰範 (大分)

【詩舞】一般一部

優勝 伊藤修司 (愛知)
2位 永井聡多 (愛知)
3位 安友理恵 (岡山)
4位 多田麻衣子 (大阪)
5位 小嶋和美 (京都)

【剣舞】一般二部

優勝 西原 香 (兵庫)
2位 小倉典子 (三重)
3位 松川啓子 (愛知)
4位 井上博樹 (兵庫)
5位 藤原さつき (栃木)

【詩舞】一般二部

優勝 入倉仁美 (愛知)
2位 百田あゆみ (京都)
3位 小室敦子 (京都)
4位 友井川泰子 (兵庫)
5位 建部 司 (愛知)

【剣舞】一般三部

優勝 小澤文子 (愛知)
2位 谷野光弘 (岡山)
3位 西村美輪 (高知)

【詩舞】一般三部

優勝 蜂須賀記代子 (愛知)
2位 三宅美登里 (兵庫)
3位 山田幸子 (愛媛)

Family 家族で吟剣詩舞!

剣舞が得意で、昨年優勝してから本格的に詩舞をはじめたという齊藤柚璃さん。お母さんの有貴さんも剣詩舞をしているが「柚璃は集中力がすごいけど詩舞も優勝するとは。本当に自分の娘なのか?と思いました、顔を見たら自分とよく似ているので間違いなく娘でした(笑)」

剣舞幼年の部優勝の埴嘉門さんは三兄弟の次男で、日本壮心流で学ぶ小学4年生。母方の大伯母が渥美昭武館の斎藤胡心館長、両親と兄も習っていたため物心ついた時から剣詩舞の道へ。長男の寛介さん(中央)は令和3年度幼年の部優勝。「自分も優勝したい」と練習に励み、昨年3位からうれしい初優勝を遂げた。



審査委員講評

内田寿子特別審査委員

「審査委員の方々から髪型の乱れについて意見が出され、とくに今様の髪型は感心しないという指摘がありました。詩の内容の表現は皆さんお上手で、曲目と衣装、色彩のバランス、センスが大変重要だと改めて感じました。技術的にも芸術的にも非常にいい作品がありましたので喜びを感じております」



吟剣詩薈

g i n k e n s h i b u

令和6年度全国吟詠コンクール決勝大会

優勝者インタビュー

東日本大震災からの復興のシンボル、
大熊町交流ゾーンで吟剣詩舞を公演

震災を超える

吟剣詩舞の舞台

吟剣詩舞の故郷

「赤間関」(山口県)

表紙の詩

楠公を詠ず 日柳燕石

日本に 聖人有り

其の名を 楠公と謂う

誤つて 干戈の世に生まれ

剣を提げて 英雄と作る

12

令和6年
師走

令和六年度全国吟詠コンクール決勝大会

全国吟詠コンクールには、それぞれ幼年の部(12歳未満)、少年の部(12歳以上18歳未満)、青年の部(18歳以上35歳未満)、一般一部(35歳以上55歳未満)、一般二部(55歳以上75歳未満)、一般三部(75歳以上)という区分があり、その6部門ごとに優勝者が選ばれます。

吟と舞の栄冠を獲得するまでの道程^{みちのり}

優勝者インタビュー

吟詠少年の部 優勝

は ら だ あ こ
原田愛子さん

吟題:九月十日(菅原道真)

淡窓伝光霊流

大分県/17歳

少壮吟士の母のもとで稽古 少年の部最後の年で優勝



祖父母が吟詠と剣詩舞に親しみ、母は少壮吟士の原田光玲子さんという吟剣詩舞一家の次女として誕生。姉の理子さんとともに物心ついた時から詩吟を始めた愛子さんは、平成三十年度に幼年の部で優勝。翌年から少年の部に出

場して令和元年、三年度に5位、四年度は2位となったものの優勝に届かず、今年が少年の部最後のチャンス。「ラストイヤーだったので何とか優勝したいとは思っていましたが、名前呼ばれて飛び上がるくらいうれしかったです」。今回『九月十日』を選んだのも「幼年で優勝した時の吟題なので、最後もこれで優勝したいという意地みたいなものがありました」とのこと。少壮吟士は「目指せばいいと思いますが、そのためには詩の意味を考えて詠わないと届かないと思うので、一つ一つ意味を捉えて努力していきたいです」と力強く答えました。

母である原田光玲子少壮吟士は「本人が望めば少壮吟士にチャレンジしてほしいですが、望むように私自身が頑張らないといけないと思います」と決意を新たにしました。

吟詠幼年の部 優勝

と お や ま り ん か
遠山凜香さん

吟題:江南の春(杜牧)

吟道鴻成流

東京都/10歳

お母さんとともに年少から 詩吟を習い初の全国大会で優勝



お母さんの影響で詩吟を始め、幼稚園年少で初舞台。コンクールは昨年まで関東大会にも進めなかったものの、初の全国大会で見事に優勝。「毎週レッスンしてもらっていて、先生にもお母さんにも一緒に来てもらったので3位には入りた

いなど。でもまさか優勝するとは思いませんでした!」。詩吟以外にピアノとスイミングを習い、塾にも通うという忙しい小学5年生ですが、詩吟は「節を回すのとか楽しいし、練習すればできるようになるところがいい」。『江南の春』は「春というのもいいし、落ち着いた曲で私に合っていると思って選んだ」そうで、「緊張したけど最後までやりきるぞと思って、自信満々な感じで詠いました(笑)」とのこと。これからも吟詠を続けて、「どんだうまくなっていきたいです」と夢を語る凜香さん。将来の吟界を背負っていく期待の金の卵です。

お母さん、弟さんともども教えている佐藤鴻希子先生によると「ピアノも習っているので音感がよく、何か言うときすぐできる子なので非常に教えがいがあります」とのこと

令和六年度全国吟詠コンクール決勝大会

栄冠を勝ち取った喜びの声とその横顔を紹介するこの企画、
今月は吟詠幼年の部から吟詠一般三部のチャンピオンの登場です。
※掲載年齢はコンクール優勝時のものです。

吟詠一般三部 優勝

中野澄子さん

吟題:佳賓好主(佐藤一斎)
吟道鴻琳流鈴峯吟詠会
広島県/77歳

初優勝で有終の美 流派宗家の指導力に感謝



「本番の舞台では不思議とあがらずに詠うことができました。ただ、周りからいつもよりちょっと元気がなかったという評もあり、期待などはありません。ですから発表で番号を呼ばれた時は思わず『嘘っ!』と声が出ました」。吟との出会い

は昭和56年のこと。小学校のPTA活動で現流派宗家と親しくなり、誘われたのがきっかけです。以後、各種コンクールに挑戦して来ましたが入賞止まり。これが嬉しい初めての全国一位となります。「うちの宗家は段階に応じて稽古内容を変えていける方で、全国挑戦にあたり特別な奥の手を教えてくださいました。それがうまくはまったのかも(笑)」。ちなみに「奥の手」は秘密だそうです。今回の三部優勝で、個人コンクールは卒業。しかしながら吟の研鑽は今後も続け、後進の指導にも注力したいとのことでした。

「全国優勝できたのは、師匠である宗家の指導力のおかげです」

吟詠一般二部 優勝

井川良得さん

吟題:時に憩う(良寛)
邑郷流邑郷吟詠会
茨城県/65歳

少なくとも一日一吟 不断の努力が実を結ぶ



16歳で父から吟の手ほどきを受け49年。全国コンクールへは一般一部の頃から挑戦を続けて約20年。一部時代に8位、さらに二部に移行してからは昨年8位と入賞実績を重ねてきた井川さんが、今回初の栄冠を勝ち取りました。「優勝は難しいだろうと感じていたので、発表された時はびっくりしました。本番前まで緊張していましたが、舞台では順位のことは頭になく、恥ずかしい吟だけは披露したくないという気持ち。日頃の練習の成果を皆さんに聞いていただけるだけでいいという思いで詠えました」。まさに無欲の勝利といったところですが、今コンクールに臨むにあたっての稽古では、とにかく最低でも一日一吟、毎日声を出し、加えて素読と詩心の研究を続けてきたとのこと。地道でたゆまぬ努力が、吟力の向上につながったようです。

「優勝の喜びは地元の生徒さん、そしてお彼岸ですし、亡き両親にお墓で報告したいと思います」

吟詠一般一部 優勝

井戸隆裕さん

吟題:従軍行(王昌齡)
詩道楠水吟詠会
大阪府/37歳

吟詠コンクール四冠達成 少壮吟士合格が新たなスタート



平成九年度の幼年から少年、青年の部と、これまで吟詠コンクール三冠達成。令和四年度には一般一部の年齢に達しましたが、コロナ禍のために近畿地区大会が中止。そして昨年度は2位に。「前年度に出場できなかったで、『よし、優勝するぞ』という思いが強すぎたのか、力が入りすぎた感じでした」。平成29年から吟詠スーパーチームで活躍、35歳になって卒業するとともに、昨年3月、最後の少壮コンクールに出場して見事に入選。しかし今年3月少壮コンクールに代わって開催された全国少壮吟詠家選考審査会では今回と同じ『従軍行』を詠ったものの失敗。「それもあって今回は詩文を丁寧に行って、詩の情景を思い浮かべながら詠うように心がけました」と失敗を成功につなげました。今後は少壮吟士合格に注力、「そこをスタートラインにしたい」とのこと。

目指す吟詠家としては「スーパーチームでお世話になった河野鶴聲先生の力強さと、和田彩楓先生の滑らかさの両方できるようになると楽しいと思うので頑張りたいです」

吟詠青年の部 優勝

原光希さん

吟題:従軍行(王昌齡)
吟道瑞鳳流
兵庫県/22歳

吟詠、剣舞、詩舞三部門で活躍 吟詠では昨年2位から躍進



祖父が吟詠では吟道瑞鳳流の原瑞鳳宗家であるとともに、剣詩舞の青柳流青柳芳寿朗家元であり、父がそれぞれの宗嗣であるという吟剣詩舞宗家の家に生まれた光希さん。スーパーチームには吟詠と剣詩舞両方に所属していますが、吟詠コンクールでは平成三十年度に少年の部で優勝。青年の部は昨年初めて出場して2位となりました。「初めて出て2位だったのはうれしかったのですが、今回優勝できて肩の荷が下りたような気持ちです」。『従軍行』は最終的に祖父様から聞いてもらって決めたそうですが、この1年を通して「こぶしとかユリとか技術的な部分はもちろんですが、詩の世界に入って聞き手に詩の内容をより伝えられるように意識しました」。詩吟の魅力は「自分なりに表現を工夫して詩の世界を作り上げていくこと」と、今後も追究していく心づもりです。

早稲田大学在学中は吟剣詩舞サークルの「稲吟会」幹事長を務め、卒業後も現役の指導を託され、自らの上達とともに後進の育成にも力を入れたいとのこと

吟剣詩薈

g i n k e n s h i b u

日本財団助成事業

第4回

宗家・会長会議を開催

吟剣詩舞の発展と普及のために
何を為すべきか

第6回

東日本聖吟士会吟詠と
研修の集い

日本財団助成事業

全国少壮吟詠家

選考審査会「研修会」開催

表紙の詩

寒梅 新島襄

庭上の寒梅

笑つて風雪を侵して開く

争わず又力めず

自ら百花の魁を占む

3

令和7年
弥生

令和六年度全国剣詩舞コンクール決勝大会

全国剣詩舞コンクールには、それぞれ幼年の部(12歳未満)、少年の部(12歳以上18歳未満)、青年の部(18歳以上35歳未満)、一般一部(35歳以上55歳未満)、一般二部(55歳以上70歳未満)、一般三部(70歳以上)という区分があり、その6部門ごとに優勝者が選ばれます。

吟と舞の栄冠を獲得するまでの道程^{みちのり}

優勝者インタビュー

剣舞少年の部 優勝

建部有咲さん^{たて べ あり さ}

演題:客舎の壁に題す(雲井龍雄)

天辰神容流吟剣詩舞道

愛知県/16歳

前年度に念願の詩舞で栄冠 苦手な剣舞も克服して連続優勝



前年度に詩舞少年の部で優勝。念願叶って号泣しましたが、今回は「詩舞のほうが得意なので少し不安もありましたけど、名前を呼ばれてすごうれしかったです」とのこと。三姉妹の末妹で、父である司さんの指導で剣詩舞に励み、前年度は剣

舞一般二部の司さんと同時優勝、「父と二人三脚で頑張ってきたので両方ともうれしいですけど、剣舞はあまり経験なかったので新しい喜びもありました」。剣舞の良さは「刀を振るとすっきりしてすごい気持ち良くなります(笑)」とのこと。現在は高校2年生でバスバンド部でも活躍。今後の活動としては「ネットで配信されるので学校の友達にもたくさん見てもらっていますが、多くの皆さんに吟剣詩舞に触れていただき、『こういう踊り、いいね』と思ってもらえるような剣詩舞家になりたいです」と抱負を語ってくれました。

お父さんは「(三姉妹の中で)一番集中力がいますが、私の意見を素直に聞いてやってみてから自分の意見を言うので、私もそれを聞くようにしています」とのこと

剣舞幼年の部 優勝

埴嘉門さん^{はなわ か もん}

演題:鞍馬の牛若(松口月城)

日本壮心流

愛知県/9歳

意志の強さを見せながら 前年度3位から優勝に躍進



「ひいじいちゃんやおばあちゃんも剣詩舞していた」という剣詩舞一家で、母方の大伯母が渥美昭武館の斎藤胡心館長。物心ついた時からご両親や3つ違いの兄の寛介さんと道場通い。寛介さんは令和3年度に幼年剣舞、4年度に詩舞

で優勝。それを見て「自分も優勝したい」と発奮、令和5年度に初めて全国大会に出場して3位。「悔しかった」と1年間練習に励み、「お母さんたちに怒られながら頑張ってきました」と見事に優勝を射止めました。「みんなが手伝ってくれたおかげで優勝できたので本当にうれしいです」と感謝。剣詩舞以外に習い事はしておらず、剣詩舞は「刀を振って踊ったりするのが楽しいし、綺麗に踊れるとうれしい」とその魅力にはまり、大会前は毎日練習したとのこと。今回は牛若丸についても勉強し、「とにかく元気に」と舞ってつかんだ栄冠です。

お母さんによると「性格は寛介と全然違って、私がかうだと言っても納得しないと首を縦に振らない。その意志の強さをよく出せるように頑張ってほしいです」とのこと

令和六年度全国剣詩舞コンクール決勝大会

栄冠を勝ち取った喜びの声とその横顔を紹介するこの企画、
今月は剣舞幼年の部から剣舞一般三部のチャンピオンの登場です。
※掲載年齢はコンクール優勝時のものです。

一般三部 剣舞優勝

小澤文子さん

演題：涼州詞（王之渙）
日本壮心流剣詩舞道
愛知県／75歳

詩心の理解と日々の稽古に徹し 初めての全国制覇を果たす



51歳で剣詩舞に出会って25年目。コンクールではこれまで中部地区止まりでしたが、今回初の全国大会出場での快挙となりました。「思いも寄らない結果で驚きました。宗家ははじめ流派の先生方のご指導のおかげで、なんとかここまで

やって来られました」。周囲への感謝を述べる小澤さんですが、この一年は順調な日々ではなかったとのこと。「腰を傷めてそれまでできていた動きが難しくなったんです。それでもリハビリを兼ね、詩心の理解に努めながら稽古を続けました。剣舞の演題ですが切った張ったの内容ではなく、宗家にも激しさを抑えた振り付けをしていただいたのも有り難かった。幸い本番が近づくと腰の痛みもだいぶ治まり、それからは教場だけでなく、家にいるときにも場所を選ばず毎日練習することができました」。遅咲きながら見事な大輪を咲かせました。

身体と相談しながら剣詩舞を楽しみたいという小澤さん。今後の目標は詩舞。まずは流派内のコンクールを目指すそうです

一般二部 剣舞優勝

西原香さん

演題：豊公の旧宅に寄題す（荻生徂徠）
神伝真正早淵流剣詩舞道
兵庫県／58歳

「頑張らんでええ。いつも通りで」 師の声に導かれ二度目の全国優勝



「結果発表で番号を聞いたときは、ちょっと気持ち悪いくらいびっくりしました」という西原さんは、平成17年の剣舞一般一部に続き二度目の全国制覇。剣詩舞を習い始めたのは5歳の頃。今回の演題『豊公の旧宅に寄題す』は、師である

流派宗家の指示で、古くから流派に伝わる振り付けで臨みました。「現宗家の祖父の初代宗家による振り付けをそのまま舞いました。私にとっては子供の頃から踊ってきたものなので『頑張ります』と意気込みますが、宗家からは『別に頑張らんでええ。いつも通りやればええの』と言われました。昔の振り付けなので、現代風の剣舞を見慣れている方は『あれ?』と思われたかも知れませんが、本番の舞台では少し力んでしまい、師の指示通りとはいかなかったとのことですが、幼少時より慣れ親しんだ舞いで、見事に栄冠をつかみました。

剣舞で一般一部・二部と優勝を果たした西原さん。今後は、これまで近畿で三位が最高だったという詩舞で挑戦をしていきたいとのこと

剣舞一般一部 優勝

奥谷晶子さん

演題：豊公の旧宅に寄題す（荻生徂徠）
天辰神容流吟剣詩舞道
愛知県／40歳

前年度に15年ぶり出場で優勝 連続で詩舞・剣舞二冠達成



詩舞の幼年・少年・青年、剣舞の少年・青年で優勝、剣詩舞スーパーチームにも属したものの、結婚・出産のためにコンクールから遠ざかる日々。前年度に15年ぶりに全国大会に出場して見事に詩舞一般一部で優勝、今回は剣舞で連続優

勝を果たしました。「剣舞はちょっと自信がなくて愛知県も中部地区も優勝を逃しましたが、先輩方のお力添えをいただいて結果につながりました」と予選から逆転しての栄冠。演題は杉浦英容宗家の踊りを見て選んだそうですが、「刀の振りとかむずかしい部分もあったので、技術面で少しでも一般一部の剣舞ができるように気を付けて舞いました」とのこと。目力は詩舞の時よりも格段に厳しいものがありましたが、「そういう面では気持ちの入れ方も違っていったかもしれません」と詩舞との違いを意識しての優勝でした。

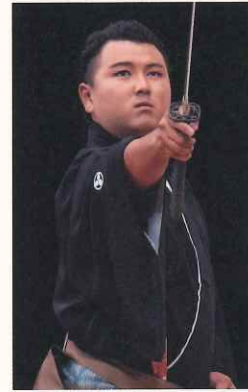
剣詩舞コンクールは一般二部の55歳になるまでお預け。しばらくは「お稽古場で皆さんと仲良く、上手に教えながら楽しくやっていけたらいいと思います」とのこと

剣舞青年の部 優勝

上岡雅治さん

演題：和歌・さへのぼる（織田信長）
朧明流剣詩舞道
三重県／26歳

客席から弟の優勝を見た前年に 自らの優勝を誓って実現



令和3年度に3位になって以来、4年度と5年度は客席から同じ剣詩舞スーパーチームメンバーである弟（隆生さん）の優勝を見届けました。「弟、頑張ってるなと思って見てました」と笑いますが「次は自分が取り

たいと思って1年間稽古したので、うまく行って良かったです」とほっとした様子。5年度に弟と同じ演題で激しい優勝争いを演じた友井川友さんと、今回も同じ演題で1位と2位。「和歌なので情景詩みたいに踊られる方が多いですが、ちょっと物語を作って（浮雲を振り払ってしまえという）信長の思いを敵に見立てながら、というのを表現して踊りました」そう。朧明流の上岡朧壮宗家の長男として生まれ、物心ついた時から剣詩舞の世界に。「来年は詩舞に挑戦します」とのことで再び弟の隆生さんと鎧を削ることになります。

令和5年に結婚、大会の前週に子供が生まれたばかり。「（妻と子に）頑張ってるな」といって出てきました（笑）。縁起の良い年になりましたね」と二重の喜びに